次ページへ続く

Continued on next page...

鎌倉時代物語研究文献目録稿

吉海直人編

［目次］

＊ 前書き
A あきぎり
B あさぢが露
C 海人の刈藻
D 有明の別
E 石清水物語
F いはでしのぶ
G 風につれなき
H 風に紅葉
I 苔の衣
J 木幡の時雨
K 恋路ゆかしき大将
L 小夜衣
M しづくに濁る
N しのびね物語
O 白露
P 鳴門中将物語
Q 初瀬物語
R 兵部卿物語
S 別本八重葎
T 松陰中納言物語
U 松浦宮物語
V むぐら
W やへむぐら
X 山路の露
Y 夢の通ひ路
Z わが身にたどる姫君
《参考文献一覧》

［前書き］

鎌倉時代物語は今まであまり注目されていなかった分野である。最近になってようやく専門的に研究する人が増加し、論文もちらほら目に付くようになってきた。しかし未だ基礎的研究も十分にはなされておらず、校本・注釈書・索引等が揃っている作品はむしろ少ない。当然研究史も層が薄いわけであるが、その研究文献目録さえも完備されていない現状である。

そこで荒削りなものではあるが、ここに総合的な目録稿を作成してみた。まだまだ不完全で、作品選定の問題を含め、誤りや漏れも少なくないと思われる。是非大方の御教示を賜わり、少しでも今後の研究に役立てたい。

なお、本稿を成すにあたって、辛島正雄氏・神野藤昭夫氏から御教示をいただいた。記して御礼申し上げる。

A　あきぎり（野坂本物語）

Ⅰ　論文目録

1金子金次郎「野坂本物語解題」国文学攷26・昭和36年11月
2土方洋一「野坂本物語」解釈と鑑賞46―11・昭和56年11月
3三角洋一「学界時評中世」国文学30―2・昭和60年2月
4福田百合子「「あきぎり」解題」中世文学31・昭和61年5月
5福田百合子「「あきぎり」と「夜の鶴」についての一考察」山口女子大学研究報告12・昭和62年3月
6辛島正雄「擬古物語とお伽草子の間―新出「あきぎり」物語をめぐって―」文学56―1・昭和63年1月

Ⅱ　単行本

1東原伸明「野坂本物語」『体系物語文学史五』（有精堂）近刊

Ⅳ　影印・翻刻

1金子金次郎「翻刻野坂本物語」国文学攷26・昭和36年11月→『物語の系譜』（啓文社）昭和42年□月
2福田百合子「『あきぎり』翻刻と考察その1、2」山口女子大学研究報告8、9・昭和58年、59年3月
3福田百合子「「あきぎり」（下冊）と「野坂本物語」の研究」山口女子大学研究報告11・昭和61年3月
4市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成一』（笠間書院）昭和63年10月

B　あさぢが露

Ⅰ　論文目録

1 今井源衛「王朝物語の終焉」国語と国文学31―10・昭和29年10月→『王朝末期物語論』（桜風社）昭和61年10月
2 安永悦子「あさぢが露の独自性について」平安文学研究21・昭和33年6月
3 鈴木弘道「浅茅が露物語考」平安文学研究35・昭和40年11月
4 大槻　修「あさぢが露の文章」平安文学研究47・昭和46年11月
5 大槻　修『あさぢが露』と『浅茅原の尚侍』」ビブリア51・昭和47年6月
6 大槻　修「あさぢが露」と「浅茅原の尚侍」続攷」ビブリア54・昭和48年6月
7 加藤　茂「「浅茅が露」の本文整定について」平安文学研究54・昭和50年11月
8 加藤　茂「『浅茅が露』の作者についての試案」緑岡詞林2・昭和50年12月
9 加藤　茂「「浅茅が露」の散逸部分についての試案」青山語文6・昭和51年3月
10 大槻　修「「あさぢが露」補遺」甲南国文23・昭和51年3月
11 石埜敬子「『あさぢが露』私註―(一)―」跡見学園短期大学紀要14・昭和53年3月
12 阿部好臣「あさぢが露」解釈と鑑賞45―1・昭和55年1月
13 杉山英昭「あさぢが露」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
14 大槻　修「浅茅が露」（岩波日本古典文学大辞典1）昭和58年10月
15 辛島正雄「中世擬古物語研究への一視点―『浅茅が露』『増鏡』所見の類話のことなど―」文献探究17・昭和61年3月
16 辛島正雄「『浅茅が露』管見―主題性と物語史的位置―」国語と国文学63―4・昭和61年4月
17 辛島正雄「『浅茅が露』作者考・序説―藤原為家作者説の仮設―」語文研究61・昭和61年6月
18 鷲沢伸介「『あさぢが露』小考」芸文東海8・昭和61年12月
19 堀口　悟「『あさぢが露』物語の兵衛大夫のり」日本文学論叢13・昭和63年3月

Ⅱ　単行本

1 松尾　聰「浅茅が露物語」『平安時代物語の研究』（東宝書房）昭和30年6月
2 小木　喬「浅茅が原の尚侍」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月
3 今井源衛「物語のゆくえ」『日本文学の歴史4』（角川書店）昭和42年8月
4 鈴木弘道『平安末期物語論』（塙書房）昭和43年4月
5 鈴木弘道『平安末期物語につきての研究』（赤尾照文堂）昭和46年8月
6 小木　喬『散逸物語の研究―平安・鎌倉時代編』（笠間書院）昭和48

年2月
7大槻　修「物語歌と物語歌集―『風葉和歌集』からみた『あさぢが露』―」『日本のことばと文芸3』（和泉書院）昭和56年12月
8石埜敬子「あさぢが露物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅲ　注釈書

1大槻　修『あさぢが露の研究』（桜楓社）昭和49年6月
2大槻　修『あさぢが露』（桜楓社）昭和50年4月

Ⅳ　影印・翻刻

1木村三四吾『あさぢが露』（古典文庫75）昭和28年10月
2中村忠行『あさぢが露・有明の別』天理図書館善本叢書6（八木書店）昭和47年1月
3市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成一』（笠間書院）昭和63年10月

C　海人の刈藻

Ⅰ　論文目録

1山岸徳平「海人の刈藻」日本文学書目解説三鎌倉時代下（岩波講座）昭和7年9月
2森岡常夫「「海人の刈藻」の特質」文学3―3・昭和10年3月
3宮田和一郎「あまのかるも」国語国文6―10・昭和11年10月→『古典文学』（天理時報社）昭和19年2月
4藤田徳太郎「鎌倉時代の物語」国語国文7―10・昭和12年10月→『日本小説史論』（至文堂）昭和14年11月
5大野木克豊「海人の刈藻」『日本文学大辞典1』（新潮社）昭和25年2月
6広沢　絢「あまのかるも―特にその構成について―」平安文学研究20・昭和32年9月
7大橋千代子「「あまのかるも」の題名と原歌」文学論叢23・昭和37年10月
8大橋千代子「「あまのかるも」の引歌」文学論叢38・昭和43年3月
9小木　喬「海人の刈藻物語考」平安文学研究41・昭和43年12月→『散逸物語の研究―平安・鎌倉時代編』（笠間書院）昭和48年2月
10国谷暁美「「あまのかるも」題名考」二松学舎大学人文論叢7・昭和49年10月
11村川和子「あまのかるも」解釈と鑑賞45―1・昭和55年1月
12豊島秀範「物語世界の変貌―台頭する脇役たち―」弘前学院大学・短期大学紀要19・昭和58年3月
13三角洋一「あまのかるも」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月

14小木　喬「海人の刈藻」（岩波日本古典文学大辞典1）昭和58年10月
15塩田公子「『海人の刈藻』改作試論」名古屋平安文学研究会会報13・昭和60年12月
16阿部好臣「あまのかるも」別冊国文学王朝物語必携・昭和62年9月
17平林文雄「『海人の刈藻』（巻一～）書陵部本による現代語全訳」群馬女子短期大学紀要14～・昭和62年12月～

Ⅱ　単行本

1吉沢義則「海人の刈藻」『鎌倉文学史』（東京堂）昭和15年8月
2市古貞次「中世物語の展開」『日本文学史6』（岩波講座）昭和34年4月→『中世小説とその周辺』（東京大学出版会）昭和56年11月
3小木　喬「あまのかるも物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月
4桑原博史「あまのかるも物語について」『中世物語の基礎的研究―資料と史的考察―』（風間書房）昭和44年9月
5小木　喬「海人の刈藻」『散逸物語の研究―平安・鎌倉時代編』（笠間書院）昭和48年2月
6樋口芳麻呂「『あまのかるも』物語」『平安・鎌倉時代散逸物語の研究』（ひたく書房）昭和57年2月
7室城秀之「あまのかるも物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅲ　注釈書

1宮田和一郎『校註海人の刈藻』（養徳社）昭和23年1月

Ⅳ　影印・翻刻

1「海人のかる藻」桂宮本叢書17（養徳社）昭和31年3月
2『あまのかるも』（古典文庫273、276）昭和45年3、6月
3平林文雄・島田早苗「『海人の刈藻』（巻一）対校本」群馬県立女子大学紀要6・昭和61年3月
4平林文雄・島田早苗「『海人の刈藻』（巻二）対校本」群馬県立女子大学紀要7・昭和62年3月
5市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成一』（笠間書院）昭和63年10月

Ⅵ　マイクロフィルム

1「あまのかるも」静嘉堂文庫所蔵物語文学書集成1―51（雄松堂）昭和55年12月

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

a「あまのかるも」6―9―5　E277　東教大図　写　157コマ　(B)
b「あまのかるも」6―9―6　E278　東教大図　写　158コマ　(B)
c「あまのかるも」32―97―1　E2745　彰考館（巳／4）　写　255コマ　(B)

d「あまのかるも」39—41—4　E1230　三手今井（国文／陸／120）写141コマ　(A)

e「海人かるも」60—55—2　E2461　山口図（151）写　一八四コマ　(B)

D　有明の別

I　論文目録

1 松尾　聰「有明の別れの物語上下」文芸文化1—4、5・昭和13年10、11月→『平安時代物語の研究』（東宝書房）昭和30年6月

2 曽沢太吉「新資料『有明の別』について」ビブリア5・昭和30年10月

3 中村忠行「『有明の別』雑攷—成立をめぐって—」山辺道4・昭和33年3月

4 中村忠行「『有明の別』再攷—成立と系図をめぐって—」山辺道5・昭和34年3月

5 田中澈宮子『有明の別』研究(一)」平安文学研究23・昭和34年7月

6 小松茂美「目なし経下絵と「有明の別」物語上下」三彩121、122・昭和34年12月、35年1月

7 益田勝実「平安時代から鎌倉時代へ—古典主義の動揺—」文学語学22・昭和36年12月

8 鈴木弘道「とりかへばや物語・松浦宮物語・有明の別物語」国文学9—8・昭和39年6月

9 大原一輝「『有明の別』の基底世界」文芸研究52・昭和41年2月

10 鈴木弘道「平安末期物語における蘇生の様相」平安文学研究36・昭和41年6月

11 大槻　修「在明の別錯簡攷—巻の三の冒頭部分について」ビブリア34・昭和41年10月

12 三谷栄一「物語文学終焉」国文学12—15・昭和42年12月

13 大槻　修「物語の奇想と頽廃美—『在明の別』と『とりかへばや』—」『論集・日本文学日本語2』（角川書店）昭和52年11月

14 鈴木一雄「『有明の別れ』ところどころ」金沢大学国語国文6・昭和53年3月

15 原田明美「『有明の別』成立年代試論」中古文学24・昭和54年10月

16 大槻　修「『有明けの別れ』の女君—その人物造型をめぐって—」『源氏物語及び以後の物語』古代文学論叢7（武蔵野書院）昭和54年12月

17 大槻　修「『有明けの別れ』の内大臣」『日本のことばと文芸1』（和泉書院）昭和54年11月

18 沢田正子「有明の別れ」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月

19 大槻　修「ある女の一生—「有明の別れ」の中務宮北の方—」『万葉・その後』（塙書房）昭和55年5月

20 大槻　修「物語歌と歌物語集—「風葉和歌集」からみた物語—在明の別（上）」『王朝物語とその周辺』（笠間書院）昭和57年9月

21 大槻　修「物語歌と歌物語集（下）—「風葉和歌集」からみた物語—在明の別」甲南国文29・昭和57年3月

22杉山英昭「在明の別れ」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
23大槻　修「在明の別」（岩波日本古典文学大辞典1）昭和58年10月
24神田龍身「物語史への一視角―『（古）とりかへばや』『在明の別』と『今とりかへばや』―」文学語学101・昭和59年4月
25西本寮子「『在明の別』の成立について―男装の意味あいと「女院」の性格―」国文学攷111・昭和61年9月
26北川真理「在明の別れ」別冊国文学王朝物語必携・昭和62年9月

Ⅱ　単行本

1松尾　聰「有明の別れの物語」『平安時代物語の研究』（東宝書房）昭和30年6月
2石川　徹『古代小説史稿』（刀江書院）昭和33年5月
3小木　喬「有明の別物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月
4三谷栄一『物語史の研究』（有精堂）昭和42年7月
5大槻　修「有明の別物語」『体系物語文学史三』（有精堂）昭和58年7月

Ⅲ　注釈書

1大槻　修『有明の別の研究』（桜楓社）昭和44年10月
2大槻　修『有明けの別れ―ある男装の姫君の物語』（創英社対訳日本古典新書）昭和54年3月

Ⅳ　影印・翻刻

1中村忠行・曽沢太吉『有明の別上』（古典文庫130）昭和33年5月
2中村忠行・曽沢太吉『有明の別下』（古典文庫117）昭和32年6月
3大槻　修『有明の別』（桜楓社）昭和45年6月
4中村忠行『あさぢが露・有明の別』天理図書館善本叢書6（八木書店）昭和47年1月
5市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成一』（笠間書院）昭和63年10月

E石清水物語（正三位物語）

Ⅰ　論文目録

1野々口精一「石清水物語につきて」国学院雑誌14―12・明治41年12月
2野村八良「石清水物語＝不倫の恋の悔悟」鎌倉時代の小説（岩波講座日本文学）昭和6年8月
3山岸徳平「岩清水物語」日本文学書目解説三鎌倉時代下（岩波講座）昭和7年9月
4後藤丹治「岩清水物語は果して宝治文永年間の作か」文学1―7・昭和8年10月→『中世国文学研究』（磯部甲陽堂）昭和18年5月

5 佐藤良二・佐藤一三「岩清水物語」『国文学書史』（厚生閣）昭和9年1月
6 大野木克豊「岩清水物語」『日本文学大辞典1』（新潮社）昭和25年2月
7 渡辺竹次郎「石清水物語の二重性」長野県短期大学紀要2・昭和26年2月
8 桑原博史「岩清水物語考—中世物語研究の一章として—」文学語学43・昭和42年3月→『中世物語の基礎的研究—資料と史的考察—』（風間書房）昭和44年9月
9 三田村雅子「石清水物語」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月
10 土方洋一「石清水物語」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
11 桑原博史「石清水物語」（岩波日本古典文学辞典1）昭和58年10月
12 鷺沢伸助「『石清水物語』の系図と小考」芸文東海4・昭和59年12月
13 神田龍身「石清水物語」別冊国文学王朝物語必携・昭和62年9月
14 長谷川政春「境界・変換・話型—物語史としての石清水物語—」東横国文学20・昭和63年3月

Ⅱ 単行本

1 平出鏗二郎「石清水物語」『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月→（名著刊行会）昭和49年9月
2 藤岡作太郎「石清水物語」『鎌倉室町時代文学史』（大倉書店）大正4年5月
3 野村八良「住吉物語及び其の他の小説」『鎌倉時代文学新論』（明治書院）大正11年12月
4 吉沢義則「石清水物語」『鎌倉文学史』（東京堂）昭和15年8月
5 後藤丹治『中世国文学研究』（磯部甲陽堂）昭和18年5月
6 市古貞次『中世小説』日本文学教養講座7（至文堂）昭和26年12月
7 市古貞次「中世物語の展開」『日本文学史』（岩波講座）昭和34年4月→『中世小説とその周辺』（東京大学出版会）昭和56年11月
8 桑原博史「石清水物語について」『中世物語の基礎的研究—資料と史的考察—』（風間書房）昭和44年9月
9 山森雅樹「『石清水物語』の構成と問題点—所収歌の調査を通して—」説話・物語論集4・昭和51年2月
10 佐々木八郎『中世文学の構想』（明治書院）昭和56年10月
11 久下晴康「石清水物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅳ 影印・翻刻

1 『石清水物語』校注日本文学大系5（国民図書）昭和2年8月→誠文堂
2 「岩清水物語」続々群書類従15（続群書類従完成会）昭和44年10月
3 桑原博史「石清水物語」『中世物語の基礎的研究—資料と史的考察—』（風間書房）昭和44年9月
4 市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成二』（笠間書院）予定

VI　マイクロフィルム

1「岩清水物語」静嘉堂文庫所蔵物語文学書集成3—29（雄松堂）昭和59年6月

VII　国文学研究資料館所蔵M

a「岩清水物語」ヤ3—30—4　E2568　山岸徳平　写　120コマ　(A)
b「正三位物語」ヤ3—31—1　E2569　山岸徳平　写　142コマ　(A)
c「正三位物かたり」6—7—1　E267　東教大図　147コマ　(B)
d「松浦宮物語」6—46—7　E235　東教大図（ル——120—126）写　211コマ　(B)
e「正三位物語」30—36—3　E1967　刈谷図（1075）写　142コマ　(E)
f「石清水物語」32—369—3　彰考館（和四—07816）写　115コマ　(B)
g「石清水」34—31—7　E22　神宮文庫（3—1551）写　257コマ　(D)
h「正三位物かたり」37—6—1　E246　本居記念　写　142コマ　(D)
i「石清水物語」38—1—2　C1024　射和文庫　写　142コマ　(A)
j「石清水物語」48—1—4　E1351　蓬左文庫　写　213コマ　(D)

F　いはでしのぶ

I　論文目録

1小木　喬「新資料による「いはでしのぶ」の形態」文学7・昭和6年12月
2山岸徳平「いはでしのぶ」日本文学書目解説三鎌倉時代下（岩波講座）昭和7年9月
3小木　喬「いはでしのぶ新考」文学1—7・昭和8年10月
4市古貞次「いはでしのぶ」『日本氏学大辞典別』（新潮社）昭和27年4月
5樋口良子「「いはでしのぶ」の研究」平安文学研究20・昭和32年9月
6植松加代子・竹尾ひさ子・中沢愛子「三条西家本「いはてしのふ」の性格について」甲南国文21・昭和49年3月
7清水好子「鎌倉時代の物語」『日本絵巻物全集14』（角川書店）昭和55年1月
8伊井春樹「いはでしのぶ物語構造論—伏見宮の姫君たちの運命をめぐって—」日本文学25—5・昭和51年5月→『源氏物語論考』（風間書房）昭和56年6月
9久保朝孝「いはでしのぶ」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月
10豊島秀範「物語世界の変貌—台頭する脇役たち—」弘前学院大学・短期大学紀要19・昭和58年3月
11神野藤昭夫「いはでしのぶ」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
12小木　喬「いはでしのぶ」（岩波日本古典文学大辞典1）昭和58年10月
13辛島正雄「中世物語史私注—『いはでしのぶ』『恋路ゆかしき大将』

『風に紅葉』をめぐって―」徳島大学教養部紀要21・昭和61年3月

Ⅱ　単行本

1吉沢義則「いはでしのぶ」『鎌倉文学史』（東京堂）昭和15年8月

2小木　喬「いはでしのぶ物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月

3伊井春樹「いはでしのぶ物語構造論」『源氏物語論考』（風間書房）昭和56年6月

4三田村雅子「いはでしのぶ物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅲ　注釈書

1小木　喬『いはでしのぶ物語本文と研究』（笠間書院）昭和52年3月

Ⅳ　影印・翻刻

1三条西公正『いはでしのぶ』（古典文庫20）昭和24年1月

2『いはでしのぶ』（臨川書店）昭和32年3月→複製再版　昭和56年1月

書陵部蔵本

3「いはでしのぶ上下」桂宮本叢書16（養徳社）昭和35年2月

4市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成二』（笠間書院）予定

G　風につれなき

Ⅰ　論文目録

1野村八良「風につれなき物語」鎌倉時代の小説（岩波講座）昭和6年8月

2山岸徳平「風につれなき物語」日本文学書目解説三鎌倉時代下（岩波講座）昭和7年9月

3野村八良「風につれなき物語考」文学1―7・昭和8年10月

4市古貞次「風につれなき物語」『日本文学大辞典1』（新潮社）昭和25年2月

5今井源衛「王朝物語の終焉」国語と国文学31―10・昭和29年10月→『王朝末期物語論』（桜楓社）昭和61年10月

6市古貞次「中世物語の展開」『日本文学史』（岩波講座）昭和34年4月→『中世小説とその周辺』（東京大学出版会）昭和56年11月

7大槻　修「平安後期・鎌倉時代物語の多様性―起筆法・冒頭文の展開について(二)―」甲南国文24・昭和52年3月

8樋口芳麻呂「『風につれなき物語』考―『源氏物語』との関連にも触れつつ―」『源氏物語とその影響』（武蔵野書院）昭和53年3月→『平安・鎌倉時代散逸物語の研究』（ひたく書房）昭和57年2月

9久保田孝夫「風につれなき」解釈と鑑賞45―1・昭和55年1月

10樋口芳麻呂「物語と中世」解釈と鑑賞46―11・昭和56年11月

11宇田朋子「風につれなき物語」の姫君像について」甲南女子大学大学院論叢5・昭和58年3月
12小木　喬「風につれなき物語」（岩波日本古典文学大辞典1）昭和58年10月
13神野藤昭夫「風につれなき」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月

Ⅱ　単行本

1平出鏗二郎「風につれなき物語」『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月↓（名著刊行会）昭和49年9月
2藤岡作太郎「風につれなき物語」『鎌倉室町時代文学史』（大倉書店）大正4年5月
3野村八良「住吉物語及び其の他の小説」『鎌倉時代文学新論』（明治書院）大正11年12月
4吉沢義則「風につれなき物語」『鎌倉文学史』昭和15年8月
5市古貞次『中世小説とその周辺』（東京大学出版会）昭和56年11月
6小木　喬「風につれなき物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月↓（有精堂）昭和59年6月
7樋口芳麻呂「『風につれなき』物語」『平安・鎌倉時代散逸物語の研究』（ひたく書房）昭和57年2月
8平井仁子「風につれなき物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅳ　影印・翻刻

1「風につれなき物語」続々群書類従15（続群書類従完成会）昭和44年10月
2市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成二』（笠間書院）予定

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

a「風尓津連奈幾物語（丹鶴叢書）」98—31—4（913・41）岐阜大図82コマ（A）

H　風に紅葉（春日山）

Ⅰ　論文目録

1市古貞次「「かぜに紅葉」について」史学文学2—2・昭和34年5月↓『中世小説とその周辺』（東京大学出版会）昭和56年11月
2樋口芳麻呂「かぜに紅葉の典拠について」愛知大学国文学8・昭和41年12月
3辛島正雄「『風に紅葉』物語覚書㈠」文献探究8・昭和56年6月
4安藤亨子「風に紅葉・春日山」解釈と鑑賞46—11・昭和56年11月
5辛島正雄「『風に紅葉』物語覚書㈡」文献探究9・昭和56年12月
6辛島正雄「『風に紅葉』物語の完結性について—覚書㈢—」文献探究11・昭和58年3月

7友久武文「風に紅葉」（岩波日本古典文学大辞典1）昭和58年10月
8池田節子「風に紅葉」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
9辛島正雄「中世物語史私注―『いはでしのぶ』『恋路ゆかしき大将』『風に紅葉』をめぐって―」徳島大学教養部紀要21・昭和61年3月
10神田龍身「『風に紅葉』考」『源氏物語とその前後』（桜楓社）昭和61年5月

Ⅱ　単行本

1小木　喬「風に紅葉物語（春日山）」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月
2市古貞次「中世物語の展開」『日本文学史』（岩波講座）昭和34年4月→『中世小説とその周辺』（東京大学出版会）昭和56年11月
3神田龍身「風に紅葉物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅳ　影印・翻刻

1「風に紅葉（春日山）」桂宮本叢書17（養徳社）昭和31年3月
2市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成二』（笠間書院）予定

Ⅰ　苔の衣（宇治大納言物語）

Ⅰ　論文目録

1藤田徳太郎「宇治大納言物語に就て」日本文学講座（新潮社）昭和2年12月
2山岸徳平「苔の衣」日本文学書目解説三鎌倉時代下（岩波講座）昭和7年9月
3佐藤良二・佐藤一三「苔の衣」『国文学書史』（厚生閣）昭和9年1月
4森岡常夫「苔の衣にあらはれたる愛情」文化1―10・昭和9年10月
5佐々木八郎「『苔の衣』覚え書」学苑6―1・昭和14年1月→『中世文学の構想』（明治書院）昭和56年10月
6池田亀鑑「『苔の衣』絵巻について」学苑6―1・昭和14年1月
7坂井寿夫「苔の衣伝本について」学苑8―12・昭和16年12月
8大野木克豊「苔の衣」『増補改訂日本文学大辞典2』（新潮社）昭和25年8月
9今井源衛「苔の衣について―物語の解体―」日本文学3―10・昭和29年10月→『王朝末期物語論』（桜楓社）昭和61年10月
10今井源衛「王朝物語の終焉」国語と国文学31―10・昭和29年10月→『王朝末期物語論』（桜楓社）昭和61年10月
11中村幸雄「苔衣物語の諸本の系統について」愛知大学国文学3・昭和29年11月
12西尾光一「宇治大納言物語」群書解題10（続群書類従完成会）昭和36年2月
13広沢良美「寝覚物語の受容について―苔の衣の場合―」皇学館論叢5

—4・昭和47年8月
14樋口芳麻呂「新作される古代」解釈と鑑賞39—1・昭和49年1月
15原岡文子「苔の衣」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月
16麻原美子・後藤祥子・山口恵理子「〈資料紹介〉苔の衣絵巻」国文目白21・昭和57年2月
17豊島秀範「『苔の衣』の主題—仏教的思惟による基調—」弘前学院大学国語国文学会会誌8・昭和57年3月
18豊島秀範「〈衣〉の系譜—狭衣・小夜衣・苔の衣—」弘前学院大学・短期大学紀要18・昭和57年3月
19豊島秀範「物語世界の恋貌—台頭する脇役たち—」弘前学院大学・短期大学紀要19・昭和58年3月
20桑原博史「源氏物語と中世物語」解釈と鑑賞48—10・昭和58年7月
21神野藤昭夫「苔の衣」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
22山森雅樹「『苔の衣』の構想とテーマについて」金沢大学語学文学研究11・昭和58年11月
23小木　喬「苔の衣」（岩波日本古典文学大辞典2）昭和59年1月
24勝山幸人「『苔の衣』の謙遜語補助動詞について」国学院大学大学院文学研究科紀要18・昭和62年3月
25原岡文子「苔の衣」別冊国文学王朝物語必携・昭和62年9月
26神野藤昭夫「鎌倉時代の物語—『苔の衣』の方法と特質—」『日本文学講座4物語小説1』（大修館）昭和62年5月
27豊島秀範「『苔の衣』の主題論—冒頭表現との関わりにおいて—」弘前学院大学紀要25・平成1年3月

Ⅱ　単行本

1長谷川福平『古代小説史』（冨山房）明治36年9月
2平出鏗二郎「苔の衣」『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月↓（名著刊行会）昭和49年9月
3藤岡作太郎「苔の衣」『鎌倉室町時代文学史』（大倉書店）大正4年5月↓岩波書店）昭和24年6月
4吉沢義則「苔の衣」『鎌倉文学史』（東京堂）昭和15年8月
5坂井寿夫「『苔の衣』に於ける前代文学の影響—狭衣源氏の影響を中心として—」『古典文学の探究』（成武堂）昭和18年6月
6小木　喬「苔の衣物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月↓（有精堂）昭和59年6月
7桑原博史「中世物語における住吉物語の位置」『中世物語研究—住吉物語論考—』（二玄社）昭和24年11月
8佐々木八郎『中世文学の構想』（明治書院）昭和56年10月
9豊島秀範「苔の衣物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅳ　影印・翻刻

1『宇治大納言物語』続群書類従18上（経済雑誌社）大正14年3月↓（続群書類従完成会）昭和33年9月

2『苔の衣』（尊経閣叢刊）昭和14年2月
3日田　正『校本こけ衣』（謄写版）昭和29年2、3月
4『苔の衣』（古典文庫81、83）昭和29年4、6月　穂久邇文庫本
5麻原美子「『苔の衣』絵巻の研究と本文(一)」日本女子大学紀要文学部36・昭和62年3月
6麻原美子「『苔の衣』絵巻の研究と本文(二)—古本系伝本校異注記—」日本女子大学紀要文学部37・昭和63年3月
7市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成三』（笠間書院）予定

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

a「苔の衣」4—64—3　E2177　東大国文（中世31・5—1）写　65コマ　(A)
b「苔の衣」6—16—3　E299　東教大図（ル120、122）写　258コマ　(B)
c「苔乃衣」19—41—1　E2355　内閣文庫（203—82）写　259コマ　(A)
d「宇治大納言物語」20—146—1—545　書陵部（453・2）写　75コマ　(A)
e「こけ衣」34—185—4　神宮文庫（1652）写　190コマ　(D)
f「こけ衣」52—5—2　E1590　伊達開拓記念　写　352コマ　(A)

J　木幡の時雨

I　論文目録

1玉上琢弥「こはたの時雨論攷」「現存本「こはたの時雨」に就て」国語国文7—10・昭和12年10月
2田村悦子「吉田忠氏蔵古写本『こわたの時雨』について上下」美術研究276、277・昭和46年7月、47年9月
3土方洋一「木幡の時雨」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
4樋口芳麻呂「『木幡の時雨』『しづくに濁る』物語について」愛知教育大学国語国文学報27・昭和49年12月
5大槻　修「はかなげな女の悲恋物語—夕顔・浮舟的女性像の系譜をたどって—」甲南女子大学研究紀要創立十周年記念号・昭和50年11月
6大槻　修「『こわたの時雨』伝本考」『源氏物語を中心とした論攷』（笠間書院）昭和52年3月
7大槻　修「甲南女子大本「こわたの時雨」」甲南国文25・昭和53年3月
8長尾有里子「こわたの時雨」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月
9大槻　修「木幡の時雨」（岩波日本古典文学大辞典2）昭和59年1月
10辛島正雄「『木幡の時雨』の再検討—中世物語史・序説—」文学研究81・昭和59年2月
11大槻　修「物語『こわたの時雨』ところどころ」甲南女子大学研究紀要20・昭和59年3月
12辛島正雄「中世物語史私注—『木幡の時雨』『源氏小鏡』をめぐって

—」文献探究20・昭和62年9月

Ⅱ　単行本

1小木　喬「木幡の時雨物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月↓（有精堂）昭和59年6月

2小田切文洋「木幡の時雨物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅳ　影印・翻刻

1玉上琢弥「時雨」国語国文7—10・昭和12年10月

2田村悦子「吉田忠氏蔵古写本『こわたの時雨』公刊上下」美術研究282、287・昭和47年7、48年11月

3大槻　修「対校『こわたの時雨』吉田家本・高松宮家本・京大本」『源氏物語を中心とした論攷』（笠間書院）昭和52年3月

4大槻　修『甲南女子大本こわたの時雨』（和泉書院）昭和56年1月

5市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成三』（笠間書院）予定

Ⅴ　索　引

1大槻　修『甲南女子大学本こわたの時雨本文と索引』（和泉書院）昭和59年3月

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

a「こはたの時雨」21—101—2　E68　書陵高松　写　68コマ　(E)

K　恋路ゆかしき大将

Ⅰ　論文目録

1金子武雄「散逸物語「恋路ゆかしき大将」に就きて」文学13・昭和7年6月

2杉山英昭「恋路ゆかしき大将」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月

3宮田　光「『恋路ゆかしき大将』考—付、桂宮本の欠落部分について」名古屋大学平安文学研究会会報6・昭和56年4月

4室城秀之「恋路ゆかしき大将」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月

5金子武雄「恋路ゆかしき大将」（岩波日本古典文学大辞典2）昭和59年1月

6田淵福子「『恋路ゆかしき大将』の成立—その語句の特徴をめぐって—」甲南国文31・昭和59年3月

7辛島正雄「中世物語史私注—『いはでしのぶ』『恋路ゆかしき大将』『風に紅葉』をめぐって—」徳島大学教養部紀要21・昭和61年3月

Ⅱ　単行本

1吉沢義則「恋路ゆかしき大将」『鎌倉文学史』（東京堂）昭和15年8月

2小木　喬「恋路ゆかしき大将物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月
3中野幸一「『恋路ゆかしき大将』末巻」『物語文学論攷』（教育出版センター）昭和46年10月
4金子武雄「恋路ゆかしき大将論」『物語文学の研究—本文と論考—』（笠間書院）昭和49年4月
5佐々木八郎『中世文学の構想』（明治書院）昭和56年10月
6深沢　徹「恋路ゆかしき大将物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅲ　注釈書

1宮田　光「『恋路ゆかしき大将』注解—巻一（1〜5）—」東洋学園国語国文20〜24・昭和56年10月〜58年10月
2宮田　光「『恋路ゆかしき大将』注解—巻二（1〜4）—」東海学園国語国文25〜29・昭和59年3〜61年3月
3宮田　光「『恋路ゆかしき大将』注解—巻三（1〜）—」東海学園国語国文32〜・昭和62年9月〜

Ⅳ　影印・翻刻

1『恋路ゆかしき大将』桂宮本叢書16（養徳社）昭和35年2月
2金子武雄『恋路ゆかしき大将』（筑波書店）昭和11年5月
3金子武雄「恋路ゆかしき大将」『物語文学の研究—本文と論考—』（笠間書院）昭和49年4月
4市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成三』（笠間書院）予定

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

1「恋路ゆかしき大将」［金子］13—13　94コマ

L　小夜衣（異本堤中納言物語）

Ⅰ　論文目録

1後藤丹治「異本堤中納言物語と小夜ごろも」国語と国文学5—5・昭和3年5月→『中世文学研究』（磯部甲陽堂）昭和18年5月
2山岸徳平「さよ衣（異本堤中納言物語）」日本文学書目解説三鎌倉時代下（岩波講座）昭和7年9月
3星野　喬「小夜衣雑考」立命館文学1—11・昭和9年11月
4長谷川信好「小夜衣について—主として異本堤中納言との関係を論ず—」国語国文5—2・昭和10年2月
5長谷川信好「小夜衣続攷」国語国文6—2・昭和11年2月
6小木　喬「小夜衣」『日本文学大辞典2』（新潮社）昭和25年8月
7本位田重美「『小夜衣』の作者は承明門院小宰相か」古典と民俗1・昭和50年11月
8豊島秀範「小夜衣」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月

9 豊島秀範「物語世界の変貌—台頭する脇役たち—」弘前学院大学・短期大学紀要19・昭和58年3月
10 室城秀之「小夜衣」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
11 桑原博史「小夜衣」（岩波日本古典文学大辞典3）昭和59年4月
12 豊島秀範「物語文学の行方—『小夜衣』を中心に—」弘学大語文14・昭和63年3月

Ⅱ 単行本

1 平出鏗二郎「小夜ごろも」『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月↓（名著刊行会）昭和49年9月
2 吉沢義則「小夜衣」『鎌倉文学史』（東京堂）昭和15年8月
3 三谷栄一『物語文学史論』（有精堂）昭和27年5月
4 清水　泰「小夜衣」『日本文学論考』（初音書房）昭和35年6月
5 小木　喬「小夜衣物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月↓（有精堂）昭和59年6月
6 桑原博史「小夜衣について」『中世物語の基礎的研究—資料と史的考察—』（風間書房）昭和44年9月
7 豊島秀範「小夜衣物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅲ 注釈書

1 清水　泰『校註異本堤中納言物語』（龍谷大学国文学会）昭和3年4月

Ⅳ 影印・翻刻

1 松尾　聰『小夜衣』（古典文庫115）昭和32年2月
2 桑原博史「小夜衣」『中世物語の基礎的研究—資料と史的考察—』（風間書房）昭和44年9月
3 市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成三』（笠間書院）予定

Ⅵ マイクロフィルム

1「小夜衣」静嘉堂文庫所蔵物語文学書集成3—30（雄松堂）昭和59年6月

Ⅶ 国文学研究資料館所蔵M

a「さよ衣」2—38—3　E4445　東大図（A00—6002）写　145コマ　(A)
b「小夜衣」9—29—4　E381　名大小林　225コマ　(A)
c「小夜衣」9—29—5　E382　名大小林　199コマ　(A)
d「小夜衣」216—160—3　E7587　学習院国語国文　写　219コマ　(A)
e「小夜衣」216—161—2　E7588　学習院国語国文　写　225コマ　(A)

M　しづくに濁る

Ⅰ　論文目録

1小木　喬「しづくに濁る物語考」国語と国文学46―6・昭和44年6月
2樋口芳麻呂「『木幡の時雨』『しづくに濁る』物語について」愛知教育大学国語国文学報27・昭和49年12月
3三谷邦明「しづくににごる」解釈と鑑賞46―11・昭和56年11月
4神野藤昭夫「しづくに濁る」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月

Ⅱ　単行本

1中野幸一「『しづくににごる物語』考」『物語文学論攷』（教育出版センター）昭和46年10月
2小木　喬「しづくに濁る」『散逸物語の研究―平安・鎌倉時代編』（笠間書院）昭和48年2月
3樋口芳麻呂「『しづくに濁る』物語」『平安・鎌倉時代散逸物語の研究』（ひたく書房）昭和57年2月
4沢田正子「しづくに濁る物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅳ　影印・翻刻

1山岸徳平「ある逸名の物語とその本文」文学語学28・昭和38年6月→『物語随筆文学研究』（有精堂）昭和47年2月
2中野幸一「山岸徳平博士蔵『しづくににごる物語』翻刻」『物語文学論攷』（教育出版センター）昭和46年10月
3阿部秋生・前田裕子「雫に濁る物語一冊」実践女子大学文芸資料研究所年報2・昭和58年3月
4市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成四』（笠間書院）予定

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

a「雫に濁る物語」ヤ3―30―3　E2567　山岸徳平　写　41コマ　(A)

N　しのびね物語

Ⅰ　論文目録

1永井一孝「忍音物語」『国文学書史』（早稲田大学出版局）明治40年6月
2山岸徳平「しのびね物語」日本文学書目解説三鎌倉時代下（岩波講座）昭和7年9月
3藤井信男「忍音物語」群書解題10（続群書類従完成会）昭和35年10月
4松本隆信「室町時代物語現存本簡明目録」斯道文庫書誌叢刊之2・昭和37年6月→『御伽草子の世界』（三省堂）昭和57年8月
5松本隆信「擬古物語系統の室町時代物語―「しぐれ」「若草」「桜の中将」「志賀物語」外―」斯道文庫論集4・昭和40年3月
6桑原博史「しのびね物語考―中世物語研究の一章として―」文学語学

37・昭和40年9月→『中世物語の基礎的研究—資料と史的考察—』（風間書房）昭和44年9月
7大槻　修「しのびね物語の改作態度」甲南女子大学研究紀要10・昭和49年3月
8大槻　修「はかなげな女の悲恋の物語—夕顔・浮舟的な女性像をたどって—」甲南女子大学研究紀要創立十周年記念号・昭和50年3月
9神野藤昭夫「『しのびね物語』の位相—物語史変貌の一軌跡—」国文学研究65・昭和53年6月
10山田裕次「蓬左本『しのびね物語』覚え書き—『源氏物語』の詞章の引用に就いて—」解釈24—9・昭和53年9月
11末沢明子「しのびね」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月
12松井澄子「高山郷土資料館蔵奈良絵本「しのびね」に関する報告」甲南女子大学大学院論叢2・昭和55年1月
13松井澄子「『しのびね』物語の変貌—現存本「しのびね」と「しぐれ」との比較—」平安文学研究63・昭和55年7月
14桑原博史「源氏物語と中世物語」解釈と鑑賞48—10・昭和58年7月
15浅見和彦「しのびね物語」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
16後藤康文「『忍音物語』の尼君をめぐって」文献探究13・昭和58年12月
17桑原博史「忍音物語」（岩波日本古典文学大辞典3）昭和59年4月
18西本寮子「広島大学蔵「しのびね物語」について」古代中世国文学4・昭和59年8月
19渡辺琴代「擬古物語研究—『しのびね物語』の変遷—（要旨のみ）」広島女子大国文1・昭和59年8月
20三角洋一「改作物語の和歌」東大教養学部人文科学科紀要81・昭和60年3月
21吉海直人「しのびね物語」別冊国文学王朝物語必携・昭和62年9月
22大槻　修「「しのびね物語」ところどころ」甲南国文35・昭和63年3月

Ⅱ　単行本

1平出鏗二郎「忍音物語」『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月→（名著刊行会）昭和49年9月
2吉沢義則「忍音物語」『室町文学史』（東京堂）昭和11年12月
3三谷栄一「古典の省略」『物語文学史』（有精堂）昭和27年5月
4市古貞次「恋愛談」『中世小説の研究』（東京大学出版会）昭和30年12月
5小木　喬「しのびね物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→『散逸物語の研究—平安・鎌倉時代編—』（笠間書院）昭和48年2月
6桑原博史「しのびね物語について」『中世物語の基礎的研究—資料と史的考察—』（風間書房）昭和44年9月
7中野幸一「忍音物語」『物語文学論攷』（教育出版センター）昭和46年10月

8大倉比呂志「しのびね物語」『体系物語文学史四』（有精堂）平成1年1月

Ⅲ　注釈書

1広島平安文学研究会「訳注『しのびね物語』（上）」古代中世国文学4・昭和59年8月

2広島平安文学研究会「訳注『しのびね物語』（下）」古代中世国文学5・昭和60年12月

Ⅳ　影印・翻刻

1『しのびね物語』続群書類従18上（続群書類従完成会）昭和33年9月

2『しのびね物語上下』桂宮本叢書16（養徳社）昭和35年2月

3桑原博史「しのびね物語全」『中世物語の基礎的研究—資料と史的考察』（風間書房）昭和44年9月

4小久保崇明・山田裕次「蓬左文庫蔵『しのびね物語』解題と翻刻」都留文化大学研究紀要11、12・昭和50年8月、51年9月→『蓬左文庫蔵しのびね物語』（笠間書院私家版）昭和52年4月

5「しのびね物語」丹鶴叢書7（臨川書店）昭和51年9月

6「しのびね物語」室町時代物語大成6（角川書店）昭和53年3月

7大槻　修『蓬左文庫蔵しのびね物語』（和泉書院）昭和53年9月

8平林文雄・島田早苗「『しのびね物語』（上下巻）対校本（東山御文庫本・筑波大学本・蓬左文庫本）」群馬県立女子大学研究紀要3、4・昭和58年3月、59年3月

9小久保崇明・山田裕次『対校「しのびね物語」』（和泉書院）昭和60年5月　蓬左文庫本

10大槻　修・槻の会編『校本のしのびね物語』（和泉書院）平成1年予定

11市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成四』（笠間書院）予定

Ⅵ　マイクロフィルム

1「しのびね」静嘉堂文庫所蔵物語文学書集成3—30（雄松堂）昭和59年6月

2「忍音物語」静嘉堂文庫所蔵物語文学書集成3—30（雄松堂）昭和59年6月

3「しのひね」静嘉堂文庫所蔵文学書集成3—30（雄松堂）昭和59年6月

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

1「忍音物語」12—616—1〜2

2「忍音物語」M35—43—6

3「忍音物語」CE1323

a「しのひね物語」6—47—2　E233　東教大図（ル—120—24）写81コマ(B)

b「しのひね」32—97—2　E2746　彰考館（巳/4）写107コマ(B)

c「志能比祢物語」34—236—2　神宮文庫（1662）写　86コマ　(D)
d「忍ひ音」35—43—6　E1323　初雁文庫（7—773）写　99コマ　(A)
e「しのひね」48—14—1　E1362　蓬左文庫（107・27）写　88コマ　(D)
f「しのひね」48—14—2　E1363　蓬左文庫（107・28）写　99コマ　(D)
g「しのひね」72—62—6　E3014　高山郷土（草紙部／6）写　114コマ　(A)

O　白露

I　論文目録

1柴田光彦・中野幸一「『しら露』解題」早稲田大学図書館紀要8・昭和42年3月
2中野幸一「新出の白露物語について」国文学12—12・昭和42年10月
3細野はるみ「しら露」解釈と鑑賞46—11・昭和56年11月

II　単行本

1中野幸一「『しら露物語』考」「早稲田大学図書館蔵『しら露』」『物語文学論攷』（教育出版センター）昭和46年10月

IV　影印・翻刻

1柴田光彦・中野幸一「しら露」早稲田大学図書館紀要8・昭和42年3月
2中野幸一「しら露」『物語文学論攷』（教育出版センター）昭和46年10月
3中野幸一編『室町物語集早稲田大学蔵資料影印叢書8』（早稲田大学出版部）昭和62年3月

P　鳴門中将物語（なよ竹物語）

I　論文目録

1獅埼庵「奈与竹物語絵詞解」国華378・大正10年11月
2池田亀鑑「異本は如何にして発生するか」国語と国文学8—4・昭和6年4月
3山岸徳平「奈与竹物語・鳴門中将物語」岩波講座日本文学書目解説三鎌倉時代下・昭和7年9月
4永積安明「異本なよ竹物語の系統」文学1—7・昭和8年10月→『中世文学論』（日本評論社）昭和19年11月
5菅沼貞三「なよ竹物語絵巻に就て」美術研究24・昭和8年12月
6田中一松「奈与竹物語絵巻」『日本文学大辞典5』（新潮社）昭和26年1月
7小木　喬「鳴門中将物語」『日本文学大辞典5』（新潮社）昭和26年1月

8荒木　尚「鳴門中将物語」群書解題8（続群書類従完成会）昭和36年4月
9桑原博史「なよ竹物語の中将の妻」国文学14―14・昭和44年10月
10小松茂美「「なよ竹物語絵巻」管見」『なよ竹物語絵巻』日本絵巻物大成20（中央公論社）昭和53年8月
11久保田　淳「二つの説話絵巻―「なよ竹物語絵巻」と「直幹申文絵詞―」『なよ竹物語絵巻』日本絵巻物大成20（中央公論社）昭和53年8月
12宮　次郎「なよ竹物語絵巻（解説）」『なよ竹物語絵巻』新修日本絵巻物全集17（角川書店）昭和55年1月
13土方洋一「鳴門中将物語」解釈と鑑賞46―11・昭和56年11月
14宮　次男「なよ竹物語絵巻」（岩波日本古典文学大辞典4）昭和59年7月

Ⅱ　単行本

1平出鏗二郎「鳴門中将物語」『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月↓（名著刊行会）昭和49年9月
2永積安明「なよ竹物語について」『中世文学論』（日本評論社）昭和19年11月
3「鳴門中将物語」『体系物語文学史五』（有精堂）予定

Ⅲ　注釈書

1小田清雄補注「鳴門中将物語」国文全書（国文館）明治24年4月
2岸本由豆流「鳴門中将物語考証」国文注釈全書13（国学院大院出版部）明治43年□月↓再版（すみや書房）昭和43年□月
3「鳴門中将物語」校注日本文学大系19（国民図書）昭和14年9月
4永積安明『古今著聞集』（岩波日本古典文学大系）昭和41年3月

Ⅳ　影印・翻刻

1畠山　健「鳴門中将物語」『古文ものがたり』（有斐閣）明治29年2月
2『鳴門中将物語』国文大観4（板倉書房）明治36年7月
3『鳴門中将物語』新校群書類従21（内外書籍株式会社）昭和5年9月
4『鳴門中将物語』群書類従19（続群書類従完成会）昭和6年4月
5『なよ竹物語絵巻』日本国宝全集14（日本国宝全集刊行会）昭和13年10月
6『なよ竹物語絵巻』日本絵巻物全集17（角川書店）昭和40年7月
7平林文雄「『なよ竹物語絵巻』諸本研究―新資料書陵部本・東北大蔵本にふれ―」文芸研究72・昭和48年2月
8平林文雄「『鳴門中将物語』の研究―その校本と資料―」木更津工業高専紀要6・昭和48年3月
9平林文雄「『なよ竹物語』異本研究―新資料静嘉堂本・天理図書館本にふれて―」文学研究38・昭和48年12月
10『なよ竹物語絵巻』日本絵巻物大成20（中央公論社）昭和53年8月
11『なよ竹物語絵巻』新修日本絵巻物全集17（角川書店）昭和55年1月

12小松茂美編『奈与竹物語絵巻直幹申文絵巻』日本の絵巻17（中央公論社）昭和63年8月

V 索引

1平林文雄「『鳴門中将物語』の研究（続報）」木更津工業高専紀要7・昭和49年3月

2平林文雄『なよ竹物語研究並に総索引』（白帝社）昭和49年3月

VI マイクロフィルム

1「なよ竹物語」静嘉堂文庫所蔵物語文学書集成3—30（雄松堂）昭和59年6月

VII 国文学研究資料館所蔵M

a「鳴門中将物語」9—29—6 E383 名大小林 写 12コマ (A)

b「鳴門中将物語」20—133—1—229 書陵部（452・7）写 14コマ (A)

c「なるとの中将」21—159—10 E53 書陵高松 写 16コマ (E)

d「鳴門中将物語」32—131—1—238 A19 彰考館（和／7）写 15コマ (B)

e「鳴門中将物語」32—137—1—245 A21 彰考館（和／7）写 14コマ (B)

f「鳴門中将物語」42—7—9 E2850 金刀比羅図（貴書238）写 37コマ (B)

g「なよ竹物語絵巻」32—371—9—2 彰考館（和6—07923）写 6コマ (B)

h「なよ竹物語絵巻」214—38—3—48 A45 西尾図岩瀬（9—64）写 6コマ (A)

Q 初瀬物語

I 論文目録

1小木 喬「初瀬物語」『日本文学大辞典6』（新潮社）昭和26年4月

2市古貞次「初瀬物語」群書解題10（続群書類従完成会）昭和35年7月

3原岡文子「初瀬物語」解釈と鑑賞46—11・昭和56年11月

4浅見和彦「初瀬物語」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月

5徳田和夫「初瀬物語」（岩波日本古典文学大辞典5）昭和59年10月

II 単行本

1平出鏗二郎「初瀬物語」『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月
↓（名著刊行会）昭和49年9月

2野村八良『室町時代小説論』（厳松堂）昭和13年5月

3桑原博史「初瀬物語について」『中世物語の基礎的研究—資料と史的考察—』（風間書房）昭和44年9月

Ⅳ　影印・翻刻

1『初瀬物語』続群書類従18上（続群書類従完成会）昭和33年9月

2桑原博史「初瀬物語」『中世物語の基礎的研究―資料と史的考察―』（風間書房）昭和44年9月

3「初瀬物語」室町時代物語大成10（角川書店）昭和57年2月

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

a「初瀬物語」20―133―1―235　書陵部（452・7）　写　37コマ　(A)

b「初瀬物語」20―146―1―547　書陵部（453・2）　写　24コマ　(A)

c「初瀬物語」32―131―1―244　A19　彰考館（和／7）　写　42コマ　(B)

d「初瀬物語」32―137―1―251　A21　彰考館（和／7）　写　23コマ　(B)

e「初瀬物語」32―369―4　彰考館（和4―07817）　写　23コマ　(B)

R　兵部卿物語

Ⅰ　論文目録

1山岸徳平「兵部卿物語」岩波講座日本文学書目解説三鎌倉時代下・昭和7年9月

2永積安明「兵部卿物語」『日本文学大辞典6』（新潮社）昭和26年4月

3片岡利博「『兵部卿物語』の構造―『狭衣』『小夜衣』との比較を通して―」大阪大語文35・昭和54年4月

4室城秀之「兵部卿物語」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月

5辛島正雄「『兵部卿物語』の成立をめぐって」文献探究13・昭和58年12月

6桑原博史「兵部卿物語」（岩波日本古典文学大辞典5）昭和59年10月

7辛島正雄「『兵部卿物語』の成立をめぐって・補正―宮田和一郎氏の『兵部卿物語』校注―」文献探究15・昭和60年2月

Ⅱ　単行本

1平出鏗二郎「兵部卿物語」『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月↓（名著刊行会）昭和49年9月

2小木　喬「兵部卿物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月↓（有精堂）昭和59年6月

3「兵部卿物語」『体系物語文学史五』（有精堂）予定

Ⅲ　注釈書

1宮田和一郎「兵部卿物語」武庫川学院女子大学紀要4・昭和31年

Ⅳ　影印・翻刻

1「兵部卿物語」続々群書類従15（続群書類従完成会）昭和44年10月

2「兵部卿物語」室町時代物語大成11（角川書店）昭和58年2月
3高橋正治『兵部卿物語校本・影印篇』（東京美術）昭和59年4月
4市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成五』（笠間書院）予定

S　別本八重葎

I　論文目録

1桑原博史「別本八重葎について」王朝文学14・昭和42年6月→『中世物語の基礎的研究―資料と史的考察―』（風間書房）昭和44年9月
2大槻　修「「別本八重葎」の位置づけ」平安文学研究51・昭和48年12月
3神野藤昭夫「別本八重葎」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月

II　単行本

1小木　喬「別本八重葎」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月
2桑原博史「小夜衣について（付別本八重葎）」『中世物語の基礎的研究―資料と史的考察―』（風間書房）昭和44年9月

IV　影印・翻刻

1吉田幸一「別本八重葎」中古文学1・昭和42年3月
2市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成五』（笠間書院）予定

T　松陰中納言物語

I　論文目録

1藤田徳太郎「松陰中納言物語」文学1―9・昭和8年12月→『日本小説史論』（至文堂）昭和14年11月
2永積安明「松陰中納言物語」『日本文学大辞典6』（新潮社）昭和26年4月
3斎藤道親「『松蔭中納言物語』に於ける仏教思想とその文学史的地位」駒沢国文2・昭和38年6月
4中村忠行「『松蔭中納言物語』の成立」『福田良輔教授退官記念論文集』（同記念事業会）昭和44年10月
5斎藤道親「松蔭中納言物語雑考」『古典の諸相』（富倉徳次郎先生の古稀を祝う会）昭和44年11月
6大橋千代子「松蔭中納言物語について」東洋8―12・昭和46年12月
7丸田節子「松陰中納言物語」解釈と鑑賞45―1・昭和55年1月
8室城秀之「松陰中納言物語」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
9桑原博史「松陰中納言物語」（岩波日本古典文学大辞典5）昭和59年

10月

10田淵福子「『松陰中納言物語』の成立」甲南国文33・昭和61年3月

11田淵福子「『松陰中納言物語』における敬語の特殊な用法について」解釈382・昭和62年1月

II　単行本

1小木　喬「松陰中納言物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月

2「松蔭中納言物語」『体系物語文学史五』（有精堂）予定

IV　影印・翻刻

1吉田幸一・朝倉治彦『松陰中納言物語』（古典文庫59）昭和27年5月

2吉田幸一『松陰中納言物語上下』（古典文庫284、287）昭和46年2、5月

3大橋千代子『松陰中納言物語』（古典文庫289）昭和46年7月

4市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成五』（笠間書院）予定

VII　国文学研究資料館所蔵M

1「松陰中納言物語」タ4—24—1〜4

a「松蔭中納言物語」ヤ3—29—6　E2564　山岸徳平　写　171コマ　(A)

b「松蔭中納言物語」ヤ3—30—1　E2565　山岸徳平　写　170コマ　(A)

U　松浦宮物語

I　論文目録

1永井一孝「松浦宮物語」『国文学書史』（早稲田大学出版局）明治40年6月

2志田義秀「軍記物語と擬古物語」国語と国文学3—10・大正15年10月

3野村八良「松浦宮物語」鎌倉時代の小説（岩波講座）昭和6年8月

4山岸徳平「松浦宮」日本文学書目解説三鎌倉時代下（岩波講座）昭和7年9月

5桜井　秀「松浦宮物語の原典について」文学1—7・昭和8年10月

6佐藤良二・佐藤一三「松浦宮物語」『国文学書史』（厚生閣）昭和9年1月

7後藤丹治「近古小説の二三について」国語と国文学11—5・昭和9年5月

8小木　喬「松浦宮物語につきての考察」国語と国文学17—6・昭和10年11月

9手崎政男「定家の物語創作—有心体究明の一準備—」国語と国文学17—6・昭和15年6月

10水野治久「松浦宮物語の成立時代と作者について」国語と国文学17—6・昭和15年6月

11石田吉貞「松浦宮物語の作者は藤原定家か」国語と国文学17—6・昭

和15年6月
12萩谷　朴「松浦宮物語作者とその漢学的素養（上・下）」国語と国文学18―8、9・昭和16年8、9月
13永積安明・中田剛直「松浦宮物語」『日本文学大辞典6』（新潮社）昭和26年4月
14坂本まさる「松浦宮物語新考」『古物語論考㈠』（古典文庫）昭和30年2月
15坂本まさる「松浦宮物語随考」鶴見女子短期大学紀要㈢・昭和30年11月
16松村　博「あらたまのすこかたけかき」金城国文3―2・昭和31年10月
17吉田幸一「松浦宮の成立年時と作者についての考説―文治五年三月定家廿八才頃の作か―」平安文学研究23・昭和34年7月
18萩谷　朴「松浦宮物語」群書解題10（続群書類従完成会）昭和35年7月
19益田勝実「平安時代から鎌倉時代へ―古典主義の動揺―」文学語学22・昭和36年12月
20鈴木弘道「とりかへばや物語・松浦宮物語・有明の別物語」国文学9―8・昭和39年6月
21大橋千代子「王朝文学亜流物語の著作動機―松浦宮物語の場合―」王朝文学11・昭和39年11月
22大槻　修「松浦宮物語についての覚書」大阪大学語文27・昭和42年5月
23萩谷　朴「松浦宮物語は定家の実験小説か」国語と国文学46―8・昭和44年8月
24石田吉貞「『松浦宮物語』の定家的意義」学苑361・昭和45年1月
25塚原鉄雄「大阪市立大学付属図書館蔵松浦宮物語」王朝4・昭和46年8月
26三角洋一「『松浦宮物語』の主題と構想」高知大国文5・昭和49年9月
27萩谷　朴「伝後光厳院宸翰本『松浦宮物語』調査報告」日本文学研究14・昭和50年1月
28三角洋一「『松浦宮物語』の意図をめぐって」高知大学学術研究報告24人文科学・昭和50年9月
29久保田　淳「『松浦宮物語』の橘氏忠」国文学20―15・昭和50年11月
30萩谷　朴「『松浦宮物語』補訂拾遺」日本文学研究15・昭和51年1月
31三角洋一「『松浦宮物語』の意図をめぐって」高知大学学術研究報告25・昭和51年3月
32北村英子「松浦宮物語における「なまめかし」について」樟蔭国文学14・昭和51年9月
33豊島秀範「藤原定家と『松浦宮物語』㈠～㈦」季刊歌学3～12・昭和51年11月～57年7月
34石井由紀夫「『松浦宮物語』における構造の破錠―宇文会と登皇后―」釧路論集9・昭和52年11月

35河野由美子「松浦宮物語考—妖艶美について—」国語国文学研究13・昭和53年2月
36石上　堅「松浦宮物語発想因序説」東横学園女子短期大学紀要16・昭和53年11月
37草野美智子「藤原定家と松浦宮物語」和歌文学研究41・昭和54年11月
38松村雄二「松浦宮物語」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月
39豊島秀範「『松浦宮物語』の構造と『無名草子』の評言」弘前学院大学学会誌6・昭和55年3月
40樋口芳麻呂「『松浦宮物語』『物語二百番歌合』の成立時期について」国語と国文学57—5・昭和55年5月→『平安・鎌倉時代散逸物語の研究』（ひたく書房）昭和57年2月
41菊地　仁「物語作家としての藤原定家」国学院雑誌82—2・昭和56年2月
42池田利夫「見ぬ唐土の夢—松浦宮物語を中心に—」国文学26—16・昭和56年12月
43三角洋一「松浦宮物語」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
44中野幸一「松浦宮物語」（岩波日本古典文学大辞典5」昭和59年10月
45藤村幸代「『松浦宮物語』研究—その語彙と表現から—」山口女子大国文6・昭和59年11月
46島谷弘幸「『松浦宮物語』の書写年代」Museum・昭和61年11月
47池田利夫「松浦宮物語」国文学32—4・昭和62年3月
48住谷　智「松浦宮物語」別冊国文学王朝物語必携・昭和62年9月
49錦　仁「定家と物語—『松浦宮物語』試論—」『論集藤原定家』（笠間書院）昭和63年10月

Ⅱ　単行本

1平出鏗二郎「松浦宮物語」『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月→（名著刊行会）昭和49年9月
2藤岡作太郎「松浦宮物語」『鎌倉室町時代文学史』（大倉書店）大正4年5月
3野村八良「住吉物語及び其の他の小説」『鎌倉時代文学新論』（明治書院）大正11年12月
4吉沢義則「松浦宮物語」『鎌倉文学史』（東京堂）昭和15年8月
5市古貞次「松浦宮物語の意義」『中世小説』日本文学教養講座7（至文堂）昭和26年12月
6小木　喬「松浦宮物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月
7中野幸一「松浦宮物語」『物語文学論考』（教育出版センター）昭和46年10月
8樋口芳麻呂『平安・鎌倉時代散逸物語の研究』（ひたく書房）昭和57年2月
9池田利夫「松浦宮物語」『体系物語文学史三』（有精堂）昭和58年7月

Ⅲ 注釈書

1 萩谷 朴『松浦宮物語』（角川文庫）昭和45年5月→再版 昭和59年6月

Ⅳ 影印・翻刻

1『松浦宮物語』続群書類従18上（経済雑誌社）明治44年□月→（続群書類従完成会）昭和33年9月

2 蜂須賀笛子『松浦宮物語』（岩波文庫）昭和10年1月

3『松浦宮物語』桂宮本叢書16（養徳社）昭和35年2月

4 塚原鉄雄「大阪市立大学付属図書館蔵松浦宮物語」王朝4・昭和46年8月

5 山本信吉『松浦宮物語』古典籍覆製叢刊1―7（雄松堂書店）昭和56年5月

6 市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成五』（笠間書院）予定

Ⅴ 索引

1 菅根順之『松浦宮物語総索引』（笠間書院）昭和49年9月

Ⅵ マイクロフィルム

1「松浦宮物語」静嘉堂文庫所蔵物語文学書集成3―29（雄松堂）昭和59年6月

Ⅶ 国文学研究資料館所蔵M

a「松浦物語」6―47―1 E234 東教大図（ル―120―127）写 169コマ (B)

b「松浦宮物語奥書」20―133―1―103 書陵部（452・7）写 2コマ (A)

c「松浦宮物語」20―146―1―542 書陵部（453・2）写 101コマ (A)

d「松浦宮物語」32―95―2 E2737 彰考館（巳／4）写 141コマ (B)

e「松浦宮物語奥書」32―131―1―106 A19 彰考館（和／7）写 2コマ (B)

f「松浦宮物語奥書」32―137―1―108 A21 彰考館（和／7）写 1コマ (B)

g「まつらの宮」37―2―6 E242 本居記念 写 103コマ (D)

h「松浦物語」39―45―9 E1231 三手今井（国文／陸／118）写 73コマ (A)

i「松浦物語」60―55―1 E2460 山口図（148）写 95コマ (B)

j「松浦宮物語」72―59―3 E3001 高山郷土（物語部／52）写 75コマ (A)

k「松浦宮物語」81―93―3 E3822 佐賀図（991・2・1268）写 121コマ (A)

l「松浦宮物語」216―154―2 学習院国語国文（913・436／5001）写 113コマ (A)

V　むぐら（むぐらの宿）

I　論文目録

1 常磐井和子「散逸物語『むぐら』の一本」学習院大学国語国文学会誌22・昭和54年3月
2 向井たか枝「『むくら三』欠字考」群女国文8・昭和54年6月
3 杉山英昭「むぐら」解釈と鑑賞46―11・昭和56年11月
4 土方洋一「むぐら」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
5 中野幸一「むぐら」（岩波日本日本古典文学大辞典5）昭和59年10月
6 藤井　隆「『増訂校本風葉和歌集』以後の桂切」『国文学論集』（和泉書院）昭和60年3月
7 辛島正雄「『むぐらの宿』について」徳島大学教養部紀要22・昭和62年3月
8 常磐井和子「『二巻本むぐら』の結末について」笠間リポート28・昭和62年10月

II　単行本

1 小木　喬「むぐら物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月↓（有精堂）昭和59年6月
2 小木　喬「むぐらのやど」『散逸物語の研究―平安・鎌倉時代編』（笠間書院）昭和48年2月
3 中野幸一「『むぐらの宿』巻三」『物語文学論攷』（教育出版センター）昭和46年10月
4 「むぐら物語」『体系物語文学史五』（有精堂）予定

IV　影印・翻刻

1 『むくら三』桂宮本叢書15（養徳社）昭和25年3月
2 『むくら三』（便利堂）昭和32年□月　書陵部本
3 常磐井和子『二巻本むぐら』（笠間書院）昭和59年11月　秋香台文庫蔵本

W　やへむぐら

I　論文目録

1 鹿島正二「散逸物語『八重葎』について」国語国文4―7・昭和9年7月
2 今井源衛「『八重葎』について」文学研究59・昭和35年3月↓『王朝末期物語論』（桜楓社）昭和61年10月
3 吉沢貞人「中世小説における徒然草の影響について(一)」金城国文45・昭和45年9月
4 石津はるみ「やへむぐら」解釈と鑑賞45―1・昭和55年1月

5 久下晴康「中世擬古物語の発想と形成―「物語取り」の方法から―」平安文学研究66・昭和56年11月→『平安後期物語の研究―狭衣・浜松』（新典社）昭和59年12月
6 神野藤昭夫「やへむぐら」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
7 中野幸一「八重葎」（岩波日本古典文学大辞典6）昭和60年2月
8 辛島正雄「『八重葎』物語覚書―中世物語における『狭衣物語』受容の問題と『八重葎』の位置―」文学研究82・昭和60年3月

II 単行本

1 小木　喬「八重葎物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月
2 「やへむぐら物語」『体系物語文学史五』（有精堂）予定

IV 影印・翻刻

1 三谷栄一「八重葎（翻刻）」実践女子大学紀要6・昭和34年12月
2 今井源衛『やへむぐら』（古典文庫173）昭和36年12月
3 市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成五』（笠間書院）予定

VI マイクロフィルム

1 「八重葎」静嘉堂文庫所蔵物語文学書集成3―30（雄松堂）昭和59年6月

X 山路の露

I 論文目録

1 藤岡作太郎「山路の露」『鎌倉室町時代文学史』（大倉書店）大正4年5月
2 野村八良「住吉物語及び其の他の小説」『鎌倉時代文学新論』（明治書院）大正11年12月
3 山岸徳平「山路の露」日本文学書目解説三鎌倉時代下（岩波講座）昭和7年9月
4 野村八良「山路の露」鎌倉時代の小説（岩波講座）昭和6年8月
5 本位田重美「「山路の露」の作者」国語国文24―12・昭和30年12月
6 岡　一男「『山路の露』『すもり』『雲隠六帖』」言語と文芸1・昭和33年11月
7 阿部秋生「山路之露」群書解題10（続群書類従完成会）昭和35年7月
8 本位田重美「写本系「山路の露」について」人文論究17―3・昭和41年12月
9 福田百合子「「山路の露」研究」山口女子短期大学研究報告27・昭和48年3月
10 野村倫子「『山路の露』の構造について」古代文学研究5・昭昭55年9月
11 池田節子「山路の露」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書

院）昭和58年9月
12 野村倫子「『山路の露』の表現性」日本文芸学20・昭和58年12月
13 本位田重美「山路の露」（岩波日本古典文学大辞典6）昭和60年2月
14 日向　福「『山路の露』の引歌について」相模国文12・昭和60年3月

Ⅱ　単行本

1 平出鏗二郎『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月↓（名著刊行会）昭和49年9月
2 吉沢義則「山路の露」『鎌倉文学史』（東京堂）昭和15年8月
3 「山路の露物語」『体系物語文学史五』（有精堂）予定

Ⅲ　注釈書

1 本位田重美『新注山路の露』（謄写版）昭和34年1月

Ⅳ　影印・翻刻

1 『山路乃露』続群書類従18上（続群書類従完成会）昭和33年9月
2 金子元臣『定本源氏物語新解下』（書治書院）昭和5年3月
3 池田亀鑑「古本山路の露」『源氏物語7』日本古典全書（朝日新聞社）昭和30年12月
4 本位田重美『源氏物語山路の露』（笠間書院）昭和45年4月
5 山岸徳平・今井源衛『山路の露・雲隠六帖』（新典社）昭和45年8月
6 福田百合子「山路の露―翻刻と考察―」山口女子大学研究報告人文科学2・昭和52年3月
7 本位田重美・神津真智子『源氏外篇山路の露』（和泉書院）昭和55年3月
8 市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成五』（笠間書院）予定

Ⅴ　索引

1 一色美貴子・山内洋一郎「「山路の露」自立語索引稿」広島文教女子大学研究紀要7・昭和48年6月

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

1 「山路の露」サ4―1―29
2 「山路の露」12―475―27　M35―75―3〈＋3〉
3 「山路の露」サ4―33―26
a 「堀河院艶書合」ユ1―28―3　E1483　祐徳中川（6／2―1／3366・別7）写　57コマ　(A)
b 「山路の露」4―64―4　E2178　東大国文（中世31・6―1）写　46コマ　(A)
c 「山路の露」20―146―1―550　書陵部（453・2）写　42コマ　(A)
d 「山路の露」33―903―23―2　E4068　東洋文庫（三Fあい8）刊　41コマ　(E)
e 「山路の露」33―903―24―2　E4069　東洋文庫（三Fあい9）刊　41コマ　(E)

f「山路の露」34—190—1—5　神宮文庫（1579）刊　42コマ　(D)
g「山路の露」55—267—2—1　E4037　陽明文庫　刊　40コマ　(E)
h「山路の露」73—79—2—5　E3111　河野信一記念（233・5—211）刊　42コマ　(A)
i「山路の露」76—22—6—2　白百合図（913、36／Mu56／7）刊　42コマ　(A)
j「山路の露」99—44—2—2　高知図山内（ヤ913・47）刊　40コマ　(A)
k「やま路の露」99—49—1—4　高知図山内（ヤ913・4）刊　40コマ　(A)
l「山路の露」213—12—1—4　E6683　BLRD（16015・b1）刊　40コマ　(C)
m「山路の露」251—64—1—3　会津若松図（林／和27—1／910）刊　40コマ　(A)
n「山路の露」251—80—9　会津若松図（3ハ379）写　42コマ　(A)

Y　夢の通ひ路

I　論文目録

1 川井匡俊「『夢の通ひ路物語』紹介」国文学踏査5・昭和33年3月
2 工藤進思郎「『夢の通ひ路物語』の典拠に関する調査」金城学院大学論集17・昭和50年3月
3 工藤進思郎「『夢の通ひ路物語』に関する一考察—巻三冒頭部分をめぐって—」文芸研究79・昭和50年5月
4 河端　恵・鈴木敏子「『夢の通ひ路物語』についての一考察」甲南国文23・昭和51年3月
5 工藤進思郎「『夢の通ひ路物語』成立考—典拠による考察を中心として—」『日本文芸論叢』（笠間書院）昭和51年11月
6 木村公子「『夢の通ひ路物語』の年立と脱落に関して」名古屋大学国語国文学38・昭和51年6月
7 工藤進思郎「中世物語における『源氏物語』の摂取に関する一考察—『夢の通ひ路物語』の場合—」『源氏物語の探究3』（風間書房）昭和52年11月
8 木村公子「『夢の通ひ路物語』年立再考—序相当部分をめぐって—」岐阜女子大学紀要6・昭和52年12月
9 工藤進思郎「『夢の通ひ路物語』成立追考—伏見殿千首歌（引歌）の依拠本文をめぐって—」岡山大学法文学部学術紀要40・昭和54年12月
10 木村公子「夢の通ひ路物語」解釈と鑑賞45—1・昭和55年1月
11 室城秀之「夢の通ひ路」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
12 塩田公子「『夢の通ひ路物語』の一考察—かざしの君をめぐって—」『国語国文学論集』（名古屋大学出版会）昭和59年4月
13 友久武文「夢の通ひ路」（岩波日本古典文学大辞典6）昭和60年2月

14塩田公子「『夢の通ひ路』考―『風葉集』所収歌二首をめぐって―」岐阜女子大学紀要14・昭和60年3月

15塩田公子「『夢の通ひ路物語』成立考」名古屋大学国語国文学56・昭和60年7月

Ⅱ　単行本

1小木　喬「夢の通ひ路」『散逸物語の研究―平安・鎌倉時代編』（笠間書院）昭和48年2月

Ⅳ　影印・翻刻

1山岸徳平・平沢五郎『夢の通ひ路物語』古典研究会叢書（汲古書院）昭和47年10月

2伊奈あつ子・高見沢峡子・川島春枝「蓬左文庫蔵「夢の通ひ路物語」について（その1～3）」金城国文18―2、19―1、2・昭和47年3月、昭和48年3月

3工藤進思郎・伊奈あつ子・高見沢峡子・川島春枝『夢の通ひ路物語』（福武書店）昭和50年3月

4市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成六』（笠間書院）予定

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

a「夢通路物語」ヤ3―30―2　E2566　山岸徳平　写　425コマ　(A)

Z　わが身にたどる姫君

Ⅰ　論文目録

1金子武雄「わが身にたどる姫君の文学史的地位」文学1―7・昭和8年10月

2永積安明「我身にたどる姫君」『日本文学大辞典7』（新潮社）昭和26年8月

3高尾彩子「文学史上における「わが身にたどる姫君」」平安文学研究21・昭和33年6月

4金子武雄「我身にたどる姫君小考」文教大学日本文学14・昭和40年6月

5宮田　光「『我身にたどる姫君』に於ける人物の対比と系統性について」『国語国文学論集』（笠間書院）昭和52年10月

6平井仁子「わが身にたどる姫君」解釈と鑑賞45―1・昭和55年1月

7徳満澄雄「『我身にたどる姫君』の研究(一)―成立時期と作者―」高知女子大学国文16・昭和55年8月

8辛島正雄「徳満澄雄著『我身にたどる姫君物語全註解』」語文研究50・昭和55年12月

9五十嵐譲介「平林文雄編『我身にたどる姫君本文と校異』」群女国文学研究1・昭和56年3月

10今井源衛「『我身にたどる姫君』の性愛描写について」文学50―2・

昭和57年2月
11今井源衛「『我身にたどる姫君』本文の再建」文学研究79・昭和57年3月
12今井源衛「『我身にたどる姫君』のユーモア」語文研究52、53・昭和57年6月
13辛島正雄「『我身にたどる姫君』の一面―ある女系の「年代記」―」『文学論叢』（九州大学文学部国語国文学研究室）昭和57年6月
14今井源衛「『我身にたどる姫君』巻六の成立について」『王朝物語とその周辺』（笠間書院）昭和57年9月
15土方洋一「わが身にたどる姫君」『研究資料日本古典文学①物語文学』（明治書院）昭和58年9月
16田坂憲二「『我身にたどる姫君』の時間構造」香椎潟29・昭和58年10月
17田坂憲二「『我身にたどる姫君』の年齢表現―付年齢・官位・身分一覧―」文芸と思想48・昭和59年1月
18金子武雄「我身にたどる姫君」（岩波日本古典文学大辞典6）昭和60年2月
19後藤康文「今井源衛・春秋会著『我身にたどる姫君』」語文研究59・昭和60年6月
20塩田公子「我身にたどる姫君」別冊国文学王朝物語必携・昭和62年9月
21徳田美恵「『我身にたどる姫君』小考―人物造形を中心に―」平安文学研究77・昭和62年5月
22大脇亜矢子「『我身にたどる姫君』試論―巻六の前斎宮のモデル説をめぐって―」中古文学論攷9・昭和63年12月

Ⅱ 単行本

1吉沢義則「わが身にたどる姫君」『鎌倉文学史』（東京堂）昭和15年8月
2市古貞次「中世物語の展開」『日本文学史』（岩波講座）昭和34年4月↓『中世小説とその周辺』（東京大学出版会）昭和56年11月
3小木　喬「我身にたどる姫君物語」『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月↓（有精堂）昭和59年6月
4金子武雄「我身にたどる姫君論」『物語文学の研究―本文と論考―』（笠間書院）昭和49年4月
5今井源衛「『我身にたどる姫君』論」『王朝末期物語論』（桜楓社）昭和61年10月
6「わが身にたどる姫君物語」『体系物語文学史五』（有精堂）予定

Ⅲ 注釈書

1武原　弘・宮田　尚・守屋省吾「我身にたどる姫君注解㈠～㈢」梅光女学院大学国文学研究3～5・昭和42年、43年、44年11月
2徳満澄雄『我身にたどる姫君物語全註解』（有精堂）昭和55年7月
3今井源衛他『我身にたどる姫君1～7』（桜楓社）昭和58年4月～10

月

Ⅳ　影印・翻刻

1金子武雄『我身にたどる姫君上下』（古典文庫106、107）昭和31年5月、31年6月　九条家本

2金子武雄「我身にたどる姫君」『物語文学の研究―本文と論考―』（笠間書院）昭和49年4月

3橋本不美男・桑原博史『我身にたどる姫君』古典研究会叢書（汲古書院）昭和50年5月　書陵部本

4平林文雄「『我身にたどる姫君』書陵部本巻一・巻二」文学研究48・昭和53年12月

5平林文雄「『我身にたどる姫君』（巻六）校本と和歌索引」木更津工業高専紀要12・昭和54年3月

6平林文雄「『我身にたどる姫君』書陵部本巻三」文学研究49・昭和54年6月

7平林文雄「『我身にたどる姫君』書陵部本巻四」文学研究50・昭和54年12月

8平林文雄『我身にたどる姫君本文と校異1～4』（笠間書院）昭和55年4月

9平林文雄「『我身にたどる姫君』書陵部本巻五」文学研究51・昭和55年7月

10平林文雄「『我身にたどる姫君』巻八校本―書陵部本・尊経閣本・金子氏本―」群女国文学研究1・昭和56年3月

11平林文雄「『我身にたどる姫君』（巻七）校本並びに和歌索引」群馬県立女子大学紀要1・昭和56年3月

12平林文雄「『我身にたどる姫君』巻五（続）」文学研究53・昭和56年6月

13平林文雄「『我身にたどる姫君』巻六校本―書陵部本・尊経閣本・金子氏本―」群女国文学研究2・昭和57年3月

14平林文雄「『我身にたどる姫君』書陵部本巻五（続）」文学研究55・昭和57年6月

15平林文雄『『我身にたどる姫君』本文と校異（全）』（笠間書院）昭和59年4月

16市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成六』（笠間書院）予定

Ⅴ　索引

1今井源衛「『我身にたどる姫君』人物索引」『文学論叢』（九州大学文学部国語国文学研究室）昭和57年6月

2平林文雄「『篁物語』（対校本）と『我身にたどる姫君』（和歌索引・五句索引）」群女国文学研究4・昭和59年6月

Ⅶ　国文学研究資料館所蔵M

1「我身にたどる姫君」［金子］13―2―1～4　285コマ

《参考文献一覧》

［研究書］

1 平出鏗二郎『近古小説解題』（大日本図書）明治42年10月→（名著刊行会）昭和49年9月

2 藤岡作太郎『鎌倉室町時代文学史』（大倉書店）大正4年5月→（国本出版社）昭和10年9月→（岩波書店）昭和24年6月

3 野村八良『鎌倉時代文学新論』（明治書院）大正11年12月→（増補版）大正15年5月

4 金子武雄「中世の物語文学」『日本文学講座3』（改造社）昭和9年2月

5 吉沢義則『鎌倉文学史』（東京堂日本文者全史5）昭和15年8月

6 松尾　聰『平安時代物語の研究』（東宝書房）昭和30年6月

7 小木　喬『鎌倉時代物語の研究』（東宝書房）昭和36年11月→（有精堂）昭和59年6月

8 桑原博史『中世物語の基礎的研究―資料と史的考察―』（風間書房）昭和44年9月

9 中野幸一『物語文学論攷』（教育出版センター）昭和46年10月

10 小木　喬『散逸物語の研究―平安・鎌倉時代編』（笠間書院）昭和48年2月

11 金子武雄『物語文学の研究―本文と論考―』（笠間書院）昭和49年4月

12 市古貞次『中世小説とその周辺』（東京大学出版会）昭和56年11月

13 樋口芳麻呂「平安・鎌倉時代散逸物語の研究」（ひたく書房）昭和57年2月

14 三谷栄一編『物語文学の系譜Ⅰ～Ⅲ』（有精堂体系物語文学史3～5）昭和58年7月～

15 今井源衛『王朝末期物語論』（桜楓社）昭和61年10月

16 市古貞次・三角洋一『鎌倉時代物語集成1～7』（笠間書院）昭和63年10月～

［雑誌特集］

1「特集物語文学・その構造と本質」解釈と鑑賞39―1・昭和49年1月

2「特集〝総覧・物語文学〟」解釈と鑑賞45―1・昭和55年1月

3「特集物語の視界―古典に踊る創意の群れ」解釈と鑑賞46―11・昭和56年11月

4 藤井貞和編「王朝物語必携」別冊国文学・昭和62年9月

［目録その他］

1 横山　重・巨橋頼三『物語艸子目録前篇』（大岡山書店）昭和12年6月→『物語艸子目録』（角川書店）昭和53年6月

2 久曽神昇・樋口芳麻呂・藤井　隆『物語和歌総覧本文編、索引編』（風間書房）昭和49年6月、51年10月

3 松本隆信「増訂室町時代物語類現存本簡明目録」『御伽草子の世界』（三省堂）昭和57年8月
4 伊井春樹編『物語文学の系譜』（世界思想社）昭和61年9月